Economic Indicators

発表日:2023 年 7 月 31 日(月)

鉱工業生産(2023 年 6 月)

～4-6 月期は 3 四半期ぶり増産だが物足りない結果。7-9 月期も一進一退の動き～

第一生命経済研究所　経済調査部
副主任エコノミスト　大柴　千智　(TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
22年	1月	▲ 0.8	▲ 0.7	▲ 0.9	▲ 1.8	▲ 0.5	5.9	1.3	6.4	1.5	7.7	▲ 1.0	▲ 5.0
	2月	1.3	0.0	0.6	▲ 1.9	1.8	8.6	0.5	8.7	▲ 2.2	1.1	0.5	▲ 3.6
	3月	▲ 0.3	▲ 1.6	0.7	▲ 2.7	▲ 0.4	7.9	▲ 0.1	10.0	0.4	5.9	▲ 0.5	▲ 5.6
	4月	▲ 0.4	▲ 4.7	0.3	▲ 4.6	▲ 3.5	4.4	▲ 1.6	8.0	2.2	▲ 0.6	0.7	▲ 5.6
	5月	▲ 4.4	▲ 2.7	▲ 3.8	▲ 3.3	0.5	4.5	3.4	8.5	0.1	2.2	▲ 1.0	▲ 3.4
	6月	5.0	▲ 3.0	3.2	▲ 3.3	1.5	4.7	▲ 0.7	8.6	2.3	2.6	1.4	▲ 3.2
	7月	0.6	▲ 1.8	0.7	▲ 2.1	0.7	5.1	1.4	10.4	4.5	9.6	1.1	▲ 1.5
	8月	1.4	5.7	0.8	5.5	1.1	6.2	▲ 0.3	4.9	5.8	18.8	▲ 0.5	8.9
	9月	▲ 0.5	8.7	▲ 0.7	9.6	1.7	6.2	2.8	5.0	▲ 5.4	13.4	▲ 0.3	18.0
	10月	▲ 1.7	3.1	▲ 0.6	4.7	▲ 0.2	5.0	▲ 1.5	3.7	▲ 1.7	10.6	1.5	7.2
	11月	0.0	▲ 1.4	▲ 0.4	▲ 0.8	0.0	3.5	1.3	6.6	▲ 3.9	2.5	▲ 0.9	1.9
	12月	▲ 0.6	▲ 2.2	▲ 1.2	▲ 3.1	▲ 0.1	2.7	2.2	10.5	2.7	3.9	0.2	0.0
23年	1月	▲ 3.9	▲ 2.8	▲ 3.2	▲ 2.9	▲ 0.7	2.4	2.0	9.6	▲ 10.6	▲ 5.2	▲ 2.5	1.2
	2月	3.7	▲ 0.6	4.3	0.7	1.0	1.6	▲ 1.6	5.9	7.2	2.2	4.9	4.1
	3月	0.3	▲ 0.8	0.9	0.0	0.4	2.3	1.3	8.8	▲ 1.8	▲ 0.1	0.8	5.5
	4月	0.7	▲ 0.7	▲ 0.2	▲ 1.3	▲ 0.1	6.0	1.8	12.5	1.1	▲ 2.9	0.7	3.9
	5月	▲ 2.2	4.2	▲ 1.1	4.0	1.8	7.3	1.5	8.8	2.6	3.0	1.6	9.9
	6月	2.0	▲ 0.4	1.5	0.6	▲ 0.1	5.6	▲ 1.2	9.8	▲ 0.8	▲ 1.7	▲ 1.8	4.8
	7月	▲ 0.2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	8月	1.1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

(出所)　経済産業省「鉱工業指数」
(注)23年7月、8月は、製造工業生産予測調査の数値

○4-6 月期は 3 四半期ぶりの増産だが、物足りない結果

経済産業省から公表された 23 年 6 月の鉱工業生産は前月比＋2.0%となった。2 か月ぶりの増加だが、事前の市場予想（前月比＋2.4%）や経済産業省試算値（前月比＋3.4%）を下回る結果となった。業種別には、前月の落ち込みの反動もあり自動車工業が高い伸び（前月比＋6.1%、前月比寄与度＋0.80%pt）となったほか、電子部品・デバイス（前月比＋6.8%、前月比寄与度＋0.36%pt）、汎用・業務用機械（前月比＋2.3%、前月比寄与度＋0.18%pt）等がプラス寄与した。

この結果、4-6 月期の鉱工業生産は前期比＋1.3%となった。半導体等の供給不足が緩和していることで、年明け以降速いペースで回復している自動車工業に加えて、足元では電子部品・デバイスや自動車以外の機械工業についても減少傾向に歯止めがかかっていることは好材料だ。もっとも、4-6 月期に関しては、22 年 10-12 月期に前期比▲1.7%、23 年 1-3 月期に▲1.8%と 2 四半期連続の落ち込みとなった後の戻りとしては物足りない。これまで先送りにされてきた累積需要で米国の自動車販売は堅調であることなどから、今後は自動車工業を牽引役として緩やかな持ち直しが続くとみられるものの、年後半にかけて金融引き締めの影響による海外経済の減速が強まることから、回復ペースは抑制される可能性が高いだろう。

○7 月、8 月の生産計画も強くなく、一進一退が続く見通し

同時に公表された製造工業予測指数は、7 月が前月比▲0.2%、8 月が同＋1.1%となった。一見悪くない数値にみえるが、予測指数には上振れバイアスがある点に注意が必要だ。こうしたバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値では、7 月は前月比▲2.7%の低下が見込まれる。6 月の上昇を帳消しにする低下幅であり、8 月の戻りも物足りない数字といえるだろう。

仮に 7 月が試算値、8 月が予測通りの数値となれば 7-8 月平均は 4-6 月期対比で▲1.6%下回ることとなる。9 月以降も、米国など海外経済の減速が強まることで日本の生産も順調な回復に転じるとは予想しがたい状況の中、7-9 月期の鉱工業生産はふたたび減産に転じる可能性もあり、一進一退の動きとなりそうだ。鉱工業生産は当面下押し圧力の強い状況が続くとみられる。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。